

【道路維持課所管事業審議資料】

- 再評価対象箇所一覧表 . . . p 1
- 再評価対象地区に係る事業制度・費用対効果の分析について
道路改築事業（社会資本整備総合交付金・県代行） . . . p 2
- 平成24年度 再評価実施箇所（附図）
道路改築事業 2級市道 跡津川線 . . . p 3
- パワーポイント
道路改築事業 2級市道 跡津川線 . . . p 5～11

○事業制度について	事業名	道路改築事業（社会資本整備総合交付金・県代行）	
	事業目的	県代行事業は、経済的、社会的基盤の特に弱い地域において、地域格差の解消等を図る目的で実施する事業である	
	採択基準	過疎地域自立促進特別措置法に基づき、過疎地域における基幹的な市町村道として、国土交通大臣が指定している道路の新設及び改築について都道府県計画に基づき、都道府県が市町村に代わり事業を実施することができる	
	概要 (メニュー)	新設又は改築	
○費用対効果の分析について *費用便益 B/C*	効果の項目	うち貨幣換算する項目 ≪B≫	—
		その他項目	—
	費用 ≪C≫ の算定	—	
	費用便益比の基準	非該当 ※県代行事業であるため	

平成24年度 再評価実施箇所（附図）

担当課〔道路維持課〕

番号	1	事業名 (路線・河川名等)	道路改築事業（社会資本整備総合交付金） 2級市道 跡津川線	
事業実施箇所	飛騨市神岡町土 ～飛騨市神岡町跡津川		事業主体	岐阜県 (飛騨市の県代行)
採択年度	平成16年度	完了予定年度	平成28年度以降	
再評価の実施基準	事業着手年度から5年間が経過した時点で継続中の事業（経過措置）			
事業目的	<p>2級市道跡津川線は岐阜県飛騨市神岡町土を起点とし東京大学宇宙線研究所神岡宇宙素粒子研究施設（スーパーカミオカンデ）の入口を経由し、岐阜県飛騨市神岡町佐古へ至る延長約5.9kmの道路である。当該事業はこのうち岐阜県飛騨市神岡町土から岐阜県飛騨市神岡町跡津川の880m区間を拡幅（一部バイパス）するものであり、研究施設利用者の安全な交通の確保、視察や施設見学の支援、神岡鉱山地下坑道の利用促進を目的としている。</p>			
事業概要	<p>事業延長：L=880m 道路幅員：土工部 4.0(6.0)m（トンネル、橋梁部 5.5(6.5)m） 主要構造物：トンネルL=335m</p>			
概要図	<p>全体計画 L=880m W=4.0(6.0)m</p> <p>起点 飛騨市神岡町土</p> <p>トンネル L=335m</p> <p>スーパーカミオカンデ入口</p> <p>終点 飛騨市神岡町跡津川</p> <p>市道跡津川線</p> <p>写真①</p> <p>写真②</p> <p>高原川</p> <p>飛騨市</p> <p>一般国道41号</p> <p>跡津川</p> <p> <ul style="list-style-type: none"> 事業区間 一般国道 市道 将来計画 </p>			

事業再評価
県代行事業

2級市道 跡津川線

県土整備部道路維持課
平成24年11月

県代行事業とは

◆ 県代行事業の対象

- ・ 過疎地域、特別豪雪地帯、振興山村における基幹的な市町村道で国土交通大臣が指定する道路の新設及び改築事業

◆ 根拠法令等

- ・ **過疎地域自立促進特別措置法** ⇒ **過疎代行事業**

◆ 事業者等

- ・ 都道府県が道路管理者である市町村に代わって事業実施
- ・ 補助事業の経費については都道府県が負担

過疎代行事業として、岐阜県が飛騨市に代わって事業実施

飛騨市の声

◆路線の重要性

- ・世界最先端の地下研究施設への唯一のアクセス道路

◆施設利用者

- ・日本のみならず世界の研究者も頻繁に往来
- ・著名な科学者や政治家の視察、科学体験学習などの生徒・児童等も多く来訪

◆飛騨市の取り組み

- ・スーパーカミオカンデ等の宇宙科学研究機能集積地周辺を先端科学学園都市に位置付け

◆飛騨市の状況

- ・道路整備手法としては、市事業として施工することが原則であるが、財政力指数0.37(H22)であり、市財政では困難な状況
- ・技術面でもトンネル・橋梁が必要であり、市職員の技術力不足

県代行事業による道路改築事業を継続して頂きたい

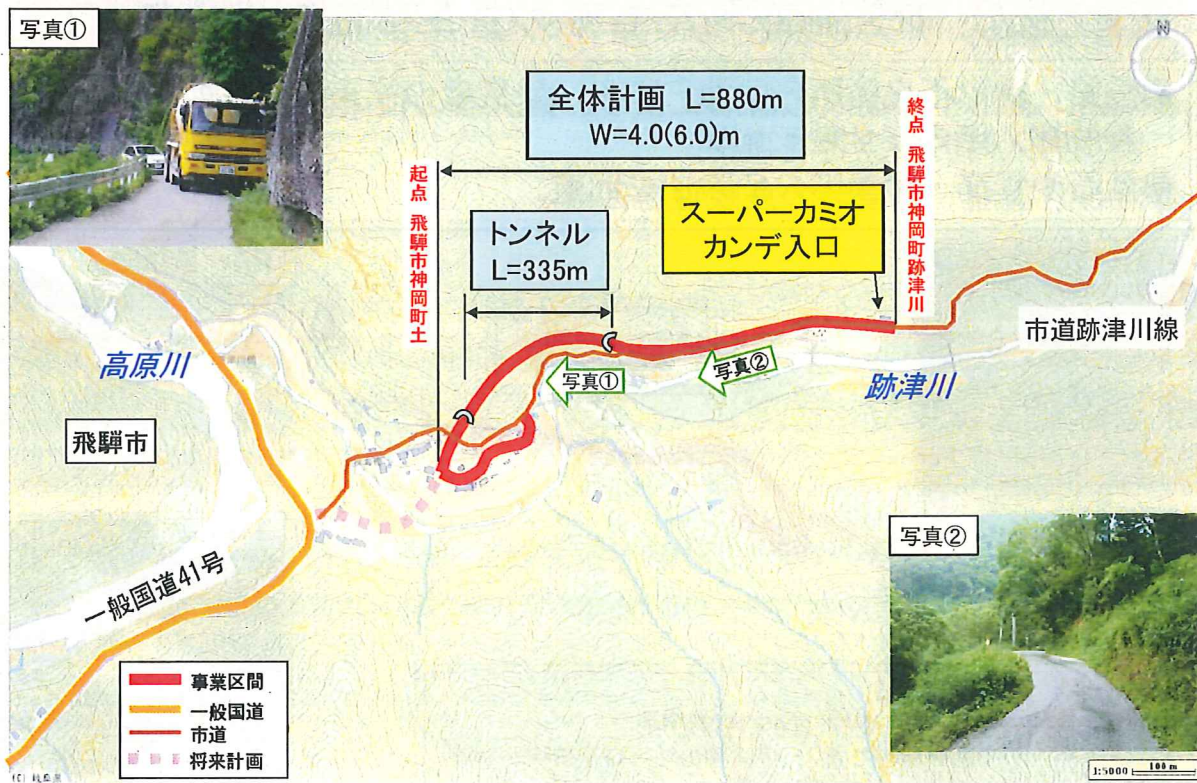
3

位置図 ①



4

位置図 ②



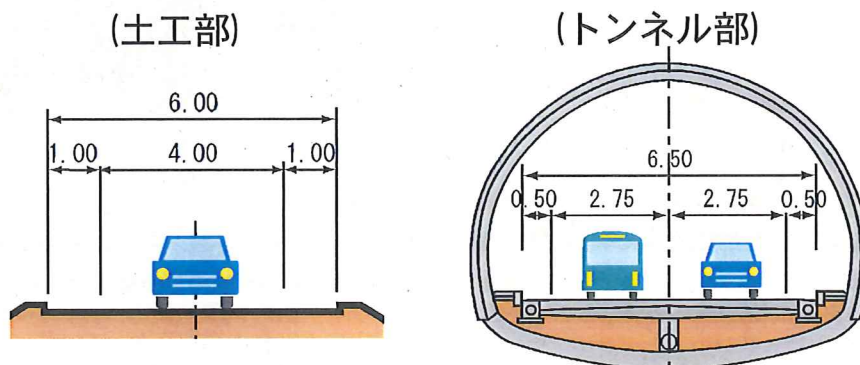
5

事業概要

- ◆起終点: ひだしかみおかちょうど 飛騨市神岡町土 ~ ひだしかみおかちょうあつがわ 飛騨市神岡町跡津川
- ◆全体延長: 880m (トンネル延長L=335m)
- ◆総事業費: 約18億円
- ◆事業着手: 平成16年度
- ◆完成予定: 平成28年度以降
- ◆幅員: 土工部 4.0(6.0)m

トンネル・橋梁部 5.5(6.5)m

標準横断図

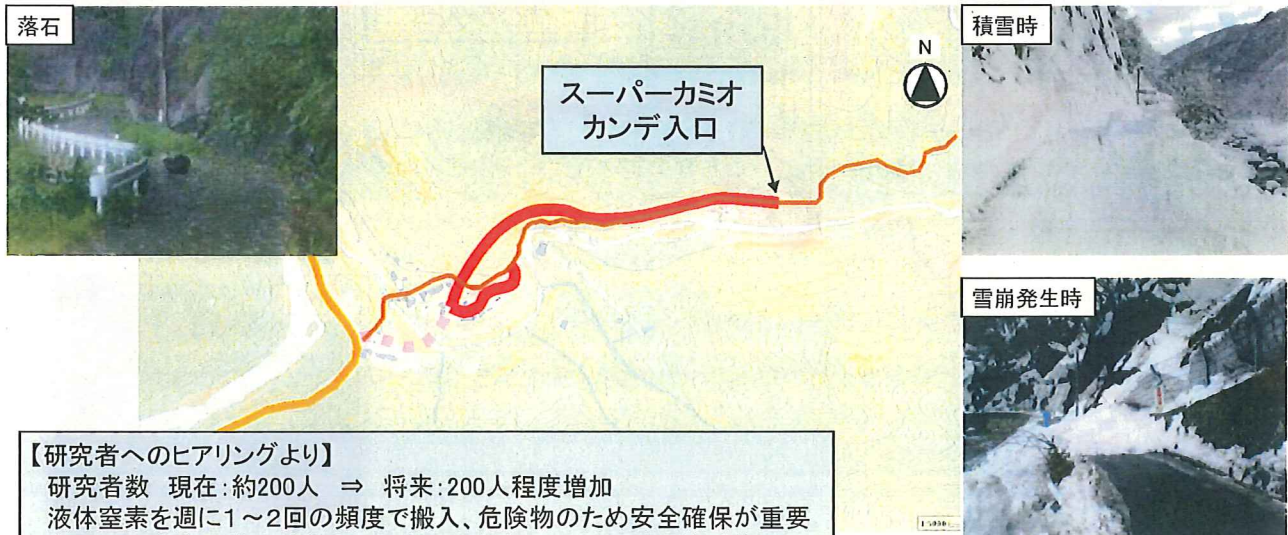


6

事業の目的①

安全・安心：研究施設利用者等の安全な通行の確保(1)

- 隘路・線形不良箇所解消により、研究者の往来時や大型資材・危険物搬入時の安全性を確保。
- 落石や雪崩・積雪時の危険性を回避。



【研究者へのヒアリングより】

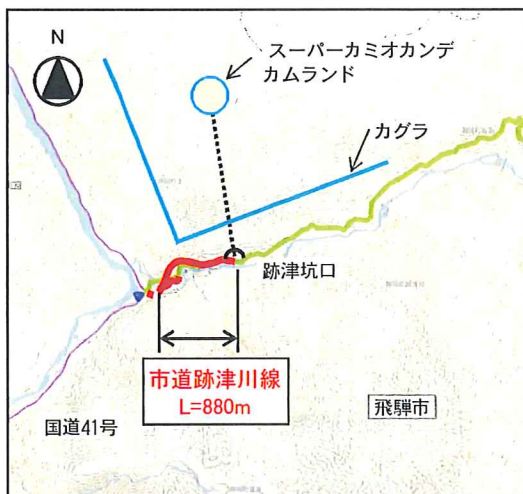
研究者数 現在：約200人 ⇒ 将来：200人程度増加
 液体窒素を週に1～2回の頻度で搬入、危険物のため安全確保が重要
 海外の研究者の安全確保は、外交面を考慮して、より重要性が高い。
 大型装置の搬入ができないため、やむを得ず小型化により搬入

7

事業の目的②

安全・安心：研究施設利用者等の安全な通行の確保(2)

- 天皇皇后両陛下や小泉総理(当時)をはじめ、自治体関係者や教育・研究関係者の視察が行われている。
- 神岡宇宙素粒子施設の見学者数は、年間概ね3千人前後。
- 視察や施設見学者の安全性の確保も必要。



● 研究施設の視察・見学状況



天皇皇后両陛下視察 (2004年7月)

出典：ICRRニュース(東大宇宙線研究所)



GSA(ジオ・スペース・アドベンチャー) (2012年7月)

出典：飛騨市HP

【研究者へのヒアリングより】

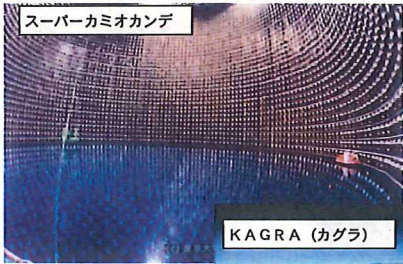
世界各国の要人による研究視察の要望もあるが、現在のアクセス道路では安全確保に不安があり、要人視察を断っている。

8

社会情勢の変化

地下空間を利用した新たな研究施設等の建設

- 飛騨市神岡町周辺において、研究施設、研究成果展示施設や見学施設等を整備した「先端科学学園都市」の策定を目指している。
- 新たに建設される宇宙科学研究施設へのアクセス道路として必要不可欠。



小柴教授2002年ノーベル賞受賞

- ・ 東京大学・東北大学をはじめ多くの研究者により世界的に先進的な宇宙物理学等の研究を数多く実施されている
- ・ 現在、大型低温重力波望遠鏡（通称：KAGRA）の建設が進められておりノーベル賞級の発見が期待されている
- ・ 今後もハイパーカミオカンデ等の研究施設の建設が予定されている

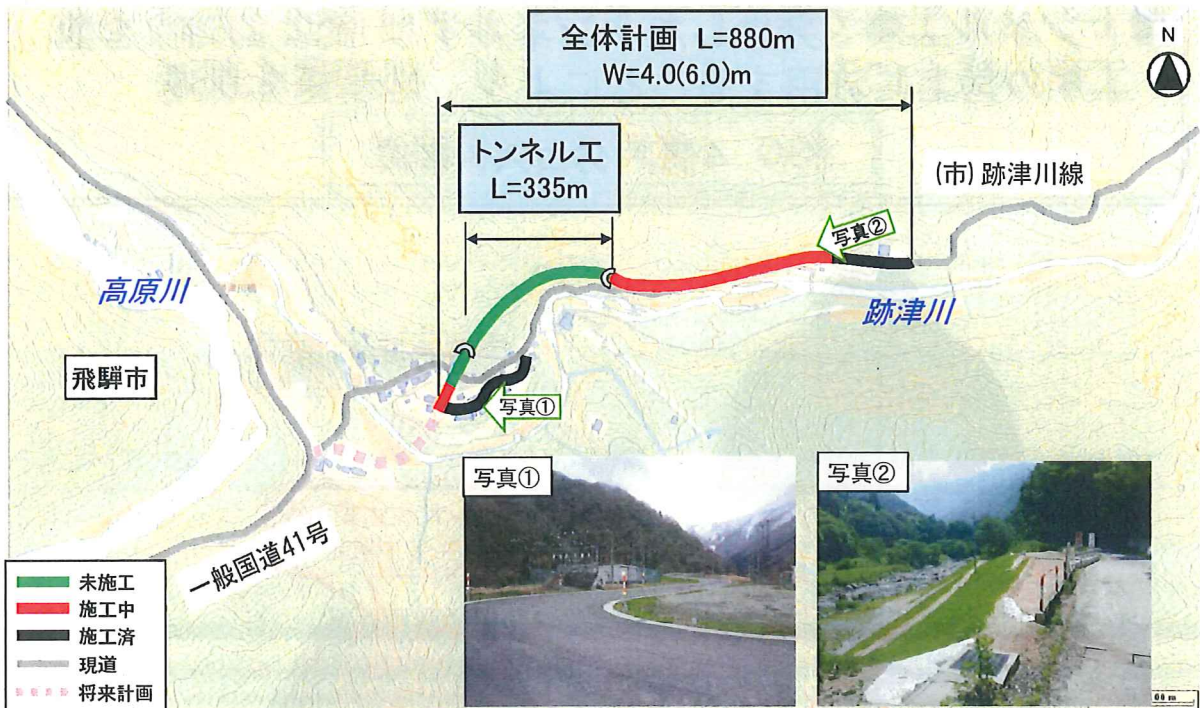
進捗状況

全体進捗率 24%*

用地補償進捗率 98%*

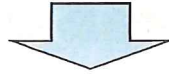
工事進捗率 17%*

※ 平成24年度末事業費ベース



費用対効果分析

本事業は日本の最先端の宇宙科学研究機能集積地に繋がる道路として、飛騨市の強い要望を受け、県として過疎地域自立促進特別措置法に基づき、飛騨市に代わり実施している事業である。



県代行事業は、経済的、社会的基盤の特に弱い地域において、地域格差の解消等を図る目的で実施する事業であり、費用対効果に基づくものではない。

本事業の効果

- 研究施設利用者等の安全な通行の確保
- 「先端科学学園都市」に向けた基幹道路整備

【参考値】

道路事業3便益（走行時間短縮等）により算出 → $B/C=0.1$ 未満（交通量が非常に少ない）

本事業の効果を経済価値として算出する方法として、
仮想的市場評価法（CVM）により算出 → $B/C=3.3$

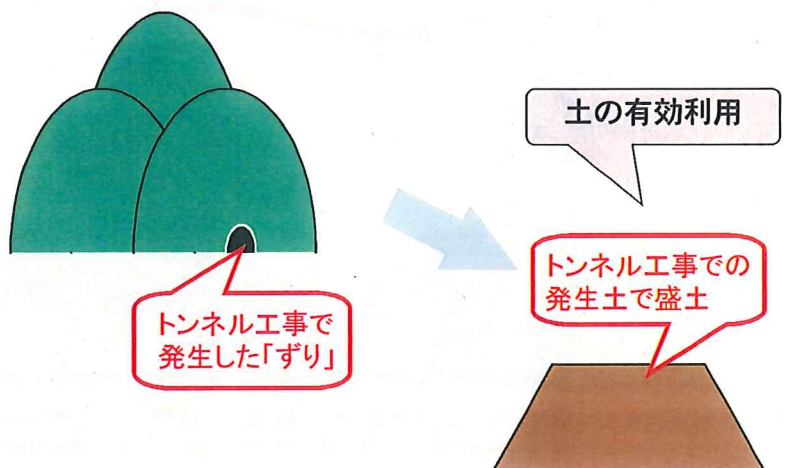
11

コスト縮減の取り組み

◆ トンネルずりの有効利用

- トンネル工事で発生したトンネルずり（約2.2万 m^3 ）を他工事の盛土に流用することにより、処理費を削減

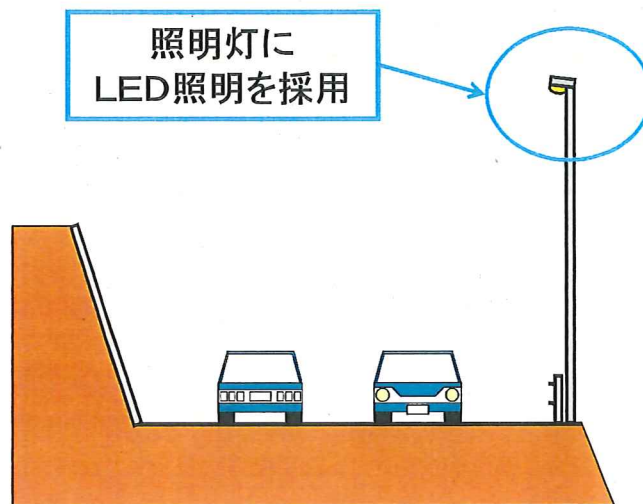
約0.4億円のコスト縮減



自然環境への配慮

◆ LED照明の採用による環境への配慮

- 長寿命かつ低消費電力であるLED照明を照明灯に採用し、蛍光ランプを用いた場合に比べ環境負荷を軽減する



13

今後の方針

○跡津川線の完成は、安全で円滑な交通を確保し、施設利用者の安全確保および学術研究の発展に大きく寄与する。

○東京大学 神岡宇宙素粒子研究施設、東北大学 ニュートリノ科学研究センターおよび飛騨市から事業の継続、早期完成の強い要望がある。



＝供用に向け、事業継続＝